

第3回庄原市長期総合計画審議会専門部会(総務財政部会) 会議録(摘録)

1. 開催日時 平成27年8月31日(月) 14:00～
2. 開催場所 庄原市役所本庁舎5階 第1委員会室
3. 出席委員 秋山 愿 委員 ・ 積山 豊道 委員 ・ 藤谷 善久 委員
小林 護 委員 ・ 早井 千波 委員 ・ 手島 亜希 委員
4. 欠席委員 堀江 勝 委員 ・ 山岡 芳晴 委員
5. 出席職員 企画課長 兼森 博夫
企画課企画調整係長 加藤 武徳
企画課企画調整係 本郷 明宏
企画課企画調整係 森久 敬太
6. 傍聴者 庄原市議会議員 岡村 信吉 ・ 庄原市議会議員 五島 誠
庄原市議会議員 近藤 久子 ・ 庄原市議会議員 林 高正
山陽新聞東城支局 支局長 南山 晴雅
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

第3回庄原市長期総合計画審議会専門部会（総務財政部会） 次第

平成27年8月31日（月）14：00～
庄原市役所 本庁5階 第1委員会室

1. 開会

2. 議事

- ・基本構想について 資料4 資料6（追加配布）
- ・基本計画について 資料5

3. その他

- ・次回専門部会開催日（予定）について
日時：平成27年10月19日（月） 10：00～
場所：庄原市役所本庁舎5階 第2委員会室

4. 閉会

会議経過

(1) 開会

(前回専門部会後の修正箇所等について事務局説明)

(2) 議事

- ・基本構想について

事務局：(資料により事務局説明)

(将来像について)

委員：以前の「里山共生都市 しょうばら」よりは頭に何かあったほうがいい。

委員：字体はプロがデザインするとイメージが大分違ってくる。レイアウトや文字の大きさを変えるなりして工夫すれば、堅いイメージは払拭される。

委員：案1の方がやわらかくて良い。

事務局：「美しく輝く」は6頁2(1)にあるように、第1期計画のサブタイトルが「人と地域が輝く美しい日本のふるさと」であったこと、また前回の審議会で「輝き」というフレーズが捨てがたいという意見もあったことから表現として付け加えている。何もつけないものを含めた4案の中で意見をいただきたい。

委員：案1が良い。

委員：案1が総括的で良いと思う。

委員：案3が良い。里山共生都市が固いので、そこにやわらかさが加わるように思う。

委員：自分の庄原のイメージは、美しく輝くではなく、泥臭く蛙の音がするようなイメージ。そうであればどれもイメージとは違うが、何もつけないと思う。

委員：わからない。共生をやわらかくした表現はないか。

事務局：前回では「交流」や「創生」という提案もしていたが意味が変わってくる。

委員：「みんなが好きといえるまち」を将来像にし、サブタイトルを「里山共生都市 しょうばら」としたらどうか？

事務局：将来像の形からは異質になる。

委員：字体が違くとやわらかいイメージになるのではないか？

事務局：書体はまだ決まっていないので、ここでは保留とさせてもらいたい。

(本編内容について)

委員：20 頁 政策の趣旨における農業の衰退について、本市は農業が基幹産業ということであれば、農業の所得減によって購買力の低下等が引き起こされ、地域活力に直結して影響するということを記載すべきでないか。

事務局：農業に携わる人も多いので意識はしている。農業の所得減により負のスパイラルに陥っていく。ご指摘のとおり、購買力の低下については記述がないので加えたい。

委員：合計特殊出生率の全国平均が 1.4 で庄原市が 1.8、将来的には 2.0、2.1 にするとの説明であったが、内容を詳しく教えてほしい。

事務局：ひと・まち・しごと創生法に関するもので、日本全体の人口は数年前の 1 億 3 千万人をピークに減少が進み、50 年後には 8 千万人にまで減少すると推計されている。50 年後も 1 億人をキープするためには、子供を増やさなければならず、そのためには合計特殊出生率を上昇させていく必要があるというのが国の考え方である。東京都は合計特殊出生率が 1.1 と極端に低く、都心から地方へ人口を移動させていけば、地方には人口減少という問題があるため、ニーズが合致することになる。諸外国では 1.5 が 2.0 まで回復した例もあるため、必要な施策を加えていけば可能であると考えている。

委員：対象は 15 歳から何歳までになるのか？

事務局：15～40 歳未満。結婚が遅い人、結婚しない人も増えている。個人のことなので強制や誘導はできないが、あくまでも結婚や出産の希望を叶える施策を考えていく。

・基本計画について

事務局：(資料により事務局説明)

委員：1 頁に市民の自治活動を推進するとあるが、①自治振興区の育成と②自治振興区への支援は同内容と思われるので、ひとつにまとめてもいいように思う。また、今後 10 年の計画期間においては、活動維持のため、自治振興区や自治会の合併・再編の話が出てくると思う。そうした記述も入れておいたほうがいいように思う。

委員：自治会は入れるべき。住民が積極的に参加するような意識醸成を図る必要がある。

事務局：自治振興区は市が関与した団体になるので、活動へのアドバイスや支援の記述は入れられる。自治振興区を構成する住民組織が自治会になるが、自治会の再編は自治振興区の中で決めるのか？

委員：自治振興区の考え方と基本的には同様である。自治会の中では合併しようという話もある。

事務局：再編に関して行政が関われることはあるのか？

委員：自治振興区に交付金をいただいているが、それぞれの実態が違うので自治会の実態調査をしている。大半は自治会に配分されている。

委員：行政側からの関わりは難しい。それよりもしっかり機能しているかチェックをしてもらわなければ、お金だけ流れているケースも多い。総会資料ひとつ出てこない例もある。区費を集めず交付金のみでやっているところもある。

事務局：自治定住課が資料を提出してもらうよう各振興区をまわっているが出てこない。中には区費を集めていない地域もあり、交付金だけで運営をしたりとばらつきがあるのが現状である。そこは皆さんと共有した考えを持つ必要があると思う。

委員：自治振興区も様々なので、説明が難しい。自治会に加入して地域をみんなでつくっていくという意識の醸成が大切であるが、住民の理解が得られる説明をするのが難しい。

委員：5頁の定住支援員「移住定住コンシェルジュ」は、どの地域単位なのか具体的に決まっているのか？

事務局：今年度からの事業になるため担当課へ確認する。ここでの表現は細かいので内容については担当課で調整中である。

委員：自分もIターンで庄原に来たが、当時、同じような役職の方がおり、顔つなぎをしてくれて非常に助かった。大きなポイントだと思う。具体的に決まったら教えてほしい。

委員：新規定住の促進における、Uターンに重点をおいた施策だが、地域に対する思いを醸成するため、小学生等への教育を入れるべきでは？

事務局：どこで育ってもふるさとを忘れずにたくましく、強く育つ子どもにするのが基本になる。地域への愛着や素晴らしさを教える教育は必要になる。

委員：子どもを産み育てる適齢期等のことは、保健で勉強するのか？晩婚化が進んでいるがそこをしっかりと教えることにより意識が変わってくるのではないか？

事務局：教えることはできるが、強制や誘導はできないので難しい面もある。

委員：庄原に帰りたいと思う子どもを増やすことはとても大切である。働き場がないと言うが、実際はどの企業も人材がほしい状況。それを理由にすることは出来ないので、庄原で暮らしていけるというビジョンをしっかりと教えることが大事になる。IターンもUターンもあるが、まずは子ども達にふるさとへの誇りと愛着を持ってもらいたい。

委員：昨年、地域の話をしてほしいということで、高校でシンポジウムをしたが、学生に好評だった。何年か経ったら帰ってくるという感想もあり、効果があると実感できた。是非施策に入れてほしいと思う。教育振興計画の住民代表で参画しているが、委員の中で意見が多くあるのは家庭教育が大事だということ。しかし、家庭教育のジャンルがないので記述がない。他の市の計画を見ても、入れづらいところなので表現は曖昧になっている。コミュニティの能力が欠けているので、地域の事は学校に入れようという話になっている。

事務局：基本計画においては、学校教育の分野で記述している。

(3) その他

- ・次回開催日（予定）について

(4) 閉会